

自 令和4年4月 1日
至 令和5年3月31日

事業報告書

公益社団法人日本将棋連盟
会長 佐藤康光

令和4年度 公益社団法人日本将棋連盟

事業報告

[自 令和4年4月1日～ 至 令和5年3月31日]

【定款抜粋】

第4条 本連盟は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 棋戦を主催し対局棋譜の提供及び棋戦の解説講評等を行い、将棋の普及啓発を推進する
- (2) 機関誌の定期発行・棋書の随時刊行により、将棋の普及発展を図る
- (3) 全国各地で講習会、大会を開催するとともに、支部等を設置して広域的に事業を展開する
- (4) 国際的な対局の開催や国際大会の支援を通じて、将棋文化を世界に発信する
- (5) セミナー・育成等の修練の場として将棋会館を設立し、一般への施設貸与にも供することにより広く棋道の発展を図る
- (6) 専門棋士を全国各地及び海外へ派遣し、将棋の拡大発展を図る
- (7) 各文化団体と連携を図り、日本固有の文化を継承発展させる活動に寄与する
- (8) 学校教育の場において将棋の普及啓発が図られるための活動を推進する
- (9) アマチュア段級位制度を通じて、将棋の普及啓発を図るため免状、認定状等を発行、交付する
- (10) その他本連盟の目的を達成するため必要な事業

定款 第4条 (1) 項に関する事業報告…1. 事業 (1) 棋戦事業

1. 竜王戦 (第35期 読売新聞社)

- (1) 現役棋士と女流棋士4名・奨励会三段1名・アマチュア4名の計180名が、1～6組に分かれてトーナメント戦(ランキング戦)を行なった。
- (2) 各クラスからの優秀成績者11名による決勝トーナメントを行ない、広瀬章人八段が挑戦者となる。
- (3) 藤井聡太竜王と挑戦者広瀬章人八段との間で七番勝負を行ない、4勝2敗で藤井聡太竜王が防衛した。
- (4) ライブでネット配信の対局があった。
＜七番勝負が行われる期間 10月～12月＞

2. 名人戦 (第80期 毎日新聞社・朝日新聞社)

- (1) A級・B級1組・B級2組・C級1組・C級2組の各クラスの順位戦に136名が参加し、斎藤慎太郎八段がA級の最高成績者となる。
- (2) 渡辺明名人と挑戦者斎藤慎太郎との間で七番勝負を行ない、4勝1敗で渡辺明が名人を防衛した。
- (3) ライブでネット配信の対局があった。
＜七番勝負が行われる期間 4月～6月＞

3. お～いお茶杯王位戦 (第63期 新聞三社連合＜北海道・中日・東京・西日本・神戸・徳島各新聞＞)

- (1) シード者以外の現役棋士と女流棋士2名の計165名が参加して、トーナメント形式による予選を行なった。
- (2) シード者4名、予選通過者8名の計12名を紅白2組に分けてそれぞれ総当たりのリーグ戦を行ない、豊島将之九段が最高成績者となる。
- (3) 藤井聡太王位と挑戦者豊島将之との間で七番勝負を行ない、4勝1敗で藤井聡太が王位を防衛した。
- (4) ライブでネット配信の対局があった。
＜七番勝負が行われる期間 7月～9月＞

4. 叡王戦 (第7期 不二家)

- (1) シード者以外の現役棋士計163名がトーナメント形式による段位別予選を行なった。
- (2) シード者4名と予選通過者12名の計16名による本戦トーナメント戦を行ない、出口若武六段が挑戦者となる。
- (3) 藤井聡太叡王と挑戦者出口若武との間で五番勝負を行ない、3連勝で藤井聡太が叡王を防衛した。
- (4) ライブでネット配信の対局があった。
＜五番勝負が行われる期間 4月～6月＞

5. 王座戦 (第70期 日本経済新聞社)

- (1) シード者以外の現役棋士と女流棋士4名の計164名が参加して、トーナメント形式による一次予選・二次予選を行なった。
- (2) 本戦シード者7名と予選通過者9名の計16名による本戦トーナメント戦を行ない、豊島将之九段が挑戦者となる。
- (3) 永瀬拓矢王座と挑戦者豊島将之との間で五番勝負を行ない、3勝1敗で永瀬拓矢が王座を防衛した。
- (4) ライブでネット配信の対局があった。
＜五番勝負が行われる期間 9月～10月＞

6. 棋王戦コナミグループ杯（第48期 共同通信社）

- (1) シード者以外の現役棋士と女流棋士1名・アマチュア1名の計148名が、トーナメント形式による予選を行なった。
- (2) シード者23名と予選通過者8名の計31名による本戦トーナメントを行ない、藤井聡太竜王が挑戦者となる。
- (3) 渡辺明棋王と挑戦者藤井聡太との間で五番勝負を行ない、3勝1敗で藤井聡太が棋王を奪取した。
- (4) ライブでネット配信の対局があった。
＜五番勝負が行われる期間 2月～3月＞

7. ALSOK 杯王将戦（第72期 スポーツニッポン新聞社・毎日新聞社）

- (1) シード者以外の現役棋士165名が、トーナメント形式による一次予選・二次予選を行なった。
- (2) シード者4名、予選通過者3名の計7名で総当たりのリーグ戦を行ない、羽生善治九段が挑戦者となる。
- (3) 藤井聡太王将と挑戦者羽生善治との間で七番勝負を行ない、4勝2敗で藤井聡太が王将を防衛した。
- (4) ライブでネット配信の対局があった。
＜七番勝負が行われる期間 1月～3月＞

8. ヒューリック杯棋聖戦（第93期 産経新聞社）

- (1) シード者以外の現役棋士と女流棋士2名の計164名が、トーナメント形式による一次予選・二次予選を行なった。
- (2) シード者6名、予選通過者10名の計16名で決勝トーナメントを行ない、永瀬拓矢王座が挑戦者となる。
- (3) 藤井聡太棋聖と挑戦者永瀬拓矢との間で五番勝負を行ない、3勝1敗で藤井聡太が棋聖を防衛した。
- (4) ライブでネット配信の対局があった。
＜五番勝負が行われる期間 6月～7月＞

9. 朝日杯将棋オープン戦（第16回 朝日新聞社）

- (1) シード者以外の現役棋士と女流棋士3名、アマチュア10名の計174名が、トーナメント形式による一次予選、二次予選を行なった。
- (2) シード者8名と予選通過者8名の計16名による本戦トーナメントを行ない、決勝は藤井聡太竜王が渡辺明名人を破って優勝した。なお、準決勝・決勝は公開対局をし、ABEMAで動画中継を行なった。
＜決勝は2月＞

10. 銀河戦（第30期 株式会社囲碁将棋チャンネル）

- (1) シード者以外の現役棋士計135名が、予選を行なった。
- (2) シード者34名と予選通過者、女流2名の計96名をA～Hの8組に分け、勝ち抜き戦を行なった。
- (3) 各組の最終勝ち上がり者と最多連勝者の計16名により、決勝トーナメントを行ない、決勝は藤井聡太竜王が高見泰地七段を破って優勝した。
＜決勝放映は12月＞

11. NHK杯将棋トーナメント（第72回 日本放送協会）

- (1) シード者以外の現役棋士計139名が、トーナメント形式による予選を行なった。
- (2) シード者32名（女流棋士1名含む）と予選通過者18名による計50名で本戦トーナ

メントを行ない、決勝は藤井聡太竜王が佐々木勇気八段を破って、優勝した。

<決勝放映は3月>

12. 将棋日本シリーズJTプロ公式戦2022（第43回 地方新聞社11社、協賛：日本たばこ産業株式会社）

(1) 選抜棋士12名でトーナメントを行ない、決勝は藤井聡太竜王が斎藤慎太郎八段を破って優勝した。全11対局を全国の都市で行ない、無料で一般に公開した。併せてこども大会を全会場で行なった。

(2) ライブでネット配信した。

<決勝は11月>

13. 新人王戦（第53期 しんぶん赤旗）

(1) 26歳以下（10月1日現在）・六段以下（タイトル戦経験者は除く）の若手棋士と女流棋士4名、奨励会三段16名の合計40名によるトーナメントを行なった。

(2) 決勝三番勝負は服部慎一郎四段が黒田堯之五段を2勝1敗で破って優勝した。

<三番勝負が行われる期間 10月～11月>

14. 加古川清流戦（第12期 加古川市、公益財団法人加古川市ウェルネス協会）

(1) 棋士14名と選抜奨励会三段21名・女流棋士2名、アマチュア3名でトーナメント戦を行なった。

(2) 決勝三番勝負は徳田拳士四段が斉藤優希三段を2連勝で破って優勝した。

決勝戦は加古川市内で行なった。

<三番勝負が行われる期間 10月>

15. ABEMA トーナメント（第5回 ABEMA 準公式戦）

(1) リーダー棋士14名がドラフトで2名を選抜し、3人1組のチームを作る。

チームに入らない棋士で予選を行ない、勝ち上り3名で15チーム目を作る。

(2) 15チームで予選・本戦を行ない、決勝はチーム稲葉（稲葉陽八段・出口若武六段・服部慎一郎五段）がチーム斎藤（斎藤慎太郎八段・木村一基九段・佐々木勇気七段）を破って優勝した。

(3) 予選・本選の全対局を ABEMA でネット配信した。

16. SUNTORY 将棋オールスター東西対抗戦（2022 SUNTORY 準公式戦）

(1) 全棋士が所属によって東軍（永瀬拓矢王座・羽生善治九段・渡辺明名人・横山泰明七段・増田康宏六段・近藤誠也七段）・西軍（藤井聡太竜王・豊島将之九段・山崎隆之八段・糸谷哲郎八段・稲葉陽八段・斎藤慎太郎八段）に分かれて、ファン投票選出で各3名、予選勝ち上がりで各3名を選出し、6名でチームを作る。

(2) 明治神宮で東西対抗戦を行ない、3勝3敗で並び、リレー将棋を行なった結果、東軍が優勝した。

(3) 予選・決勝および東西対抗戦を ABEMA でネット配信した。

17. ヒューリック杯白玲戦・女流順位戦（第2期 ヒューリック株式会社）

(1) 第1期により決定した女流棋士の順位により、A級・B級・C級・D級の4クラスに分かれてリーグ戦（女流順位戦）を行なった。

(2) 西山朋佳白玲とA級の最高成績者・里見香奈女流五冠との間で七番勝負を行ない、里見香奈女流五冠が4勝3敗で白玲を奪取した。

(3) 七番勝負のリアルタイム中継を行なった。

<七番勝負が行われる期間 8月～10月>

18. 大成建設杯清麗戦（第4期 大成建設株式会社）

(1) 女流棋士64名による予選を行なった。

- (2) 予選勝ち抜き者4名で本戦トーナメントを行ない、里見香奈女流四冠が挑戦者となる。
- (3) 加藤桃子清麗と挑戦者里見香奈との間で五番勝負を行ない、3連勝で里見香奈女流四冠が清麗を奪取した。
- (4) 本戦と五番勝負はリアルタイムで中継を行なった。
＜五番勝負が行われる期間 7月～8月＞

19. マイナビ女子オープン（第16期 株式会社マイナビ）

- (1) 前期本戦出場者12名、予選シードおよび予備予選免除者と予備予選通過者の女流棋士36名で、予選トーナメントを行なった。
- (2) シード者と予選通過者16名で本戦トーナメントを行ない、甲斐智美女流五段が挑戦者となる。
- (3) 西山朋佳女王と挑戦者甲斐智美との間で令和5年4月より五番勝負を行なう。
＜五番勝負が行われる期間 4月～6月＞

20. リコー杯女流王座戦（第12期 株式会社リコー）

- (1) シード者以外の女流棋士59名で、予選を行なった。新型コロナウイルス感染防止のため、アマチュア・海外招待者の参加は見送った。
- (2) シード者と予選通過者の計16名による本戦トーナメントを行ない、加藤桃子女流三段が挑戦者となる。
- (3) 里見香奈女流王座と挑戦者加藤桃子との間で五番勝負を行ない、3勝2敗で里見香奈が女流王座を防衛した。
- (4) ネット配信の対局を行なった。
＜五番勝負が行われる期間 10月～12月＞

21. 岡田美術館杯女流名人戦（第49期 報知新聞社）

- (1) シード者以外の現役女流棋士59名が、トーナメント形式の予選を行なった。
- (2) シード者6名、予選通過者4名の計10名で総当たりのリーグ戦を行ない、西山朋佳女流二冠が挑戦者となる。
- (3) 伊藤沙恵女流名人と挑戦者西山朋佳との間で五番勝負を行ない、3勝1敗で西山朋佳が女流名人を奪取した。
- (4) ネット配信の対局を行なった。
＜五番勝負が行われる期間 1月～3月＞

21. 女流王位戦（第33期 新聞三社連合

＜北海道・中日・東京・西日本・神戸・徳島各新聞＞）

- (1) シード者以外の現役女流棋士62名が参加して、トーナメント形式の予選を行なった。
- (2) シード者6名、予選通過者6名の計12名を紅白2組に分けてそれぞれ総当たりのリーグ戦を行ない、西山朋佳女流二冠が挑戦者となる。
- (3) 里見香奈女流王位と挑戦者西山朋佳との間で五番勝負を行ない、3勝1敗で里見香奈が女流王位を防衛した。
＜五番勝負が行われる期間 4月～6月＞

22. 霧島酒造杯女流王将戦（第44期 株式会社囲碁将棋チャンネル）

- (1) シード者以外の現役女流棋士60名とアマチュア4名が参加して、トーナメント形式の予選を行なった。
- (2) シード者4名と予選通過者の計16名で本戦トーナメントを行ない、西山朋佳女流二冠が挑戦者となる。
- (3) 里見香奈女流王将と挑戦者西山朋佳との間で三番勝負を行ない、2勝1敗で西山朋佳が女流王将を奪取した。

(4) (2) (3) はテレビ放映した。

＜三番勝負が行われる期間 10月～11月＞

23. 大山名人杯倉敷藤花戦（第30期 倉敷市・倉敷市文化振興財団・山陽新聞社）

(1) 倉敷藤花以外の現役女流棋士65名とアマチュア2名が参加して、トーナメントを行ない、西山朋佳女流二冠が挑戦者となる。

(2) 里見香奈倉敷藤花と挑戦者西山朋佳との間で三番勝負を行ない、2連勝で里見香奈が倉敷藤花を防衛した。

＜三番勝負が行われる期間 11月＞

24. YAMADA 女流チャレンジ杯（第7回 株式会社ヤマダ電機）

(1) 女流二段以下かつ15年以下の女流棋士計30名とアマチュア1名でトーナメント戦を行なった。

(2) 決勝は加藤結李愛女流初段が堀彩乃女流1級を破って優勝した。

(3) 決勝は群馬県で行ない、無料で一般に公開した。

＜決勝は1月＞

定款 第4条（2）項に関する事業計画…収1 物品販売、出版、付帯収益事業

1. 月刊「将棋世界」

A5判、244頁、付録1冊、定価870円、毎月3日発売

販売：株式会社マイナビ出版

⇒予定通り、刊行した。

2. 「令和4年版将棋年鑑」

B5判、640頁、定価（本体4,600円＋税）、7月下旬発売、直販品

⇒予定通り、刊行した。

3. 書籍

イ、「藤井聡太全局集 令和3年度版 上・下」将棋書籍 編

A5判、280頁・288頁、定価（本体2,460円＋税）

⇒予定通り、刊行した。

ロ、「藤井聡太の将棋入門」将棋書籍 編

A5判、160頁、定価（本体900円＋税）

⇒予定通り、刊行した。

他随時刊行、発売

以上、将棋普及を目的とした出版物を刊行した。

定款 第4条（1）項、（4）項、（6）項に関する普及事業報告

…1. 事業（3）普及啓発事業（5）、7）

1. 令和4年度社会福祉活動支援報告①

支援対象大会名 第35回全国障害者将棋大会

実施時期 令和4年10月予定

会場 東京都内

⇒新型コロナウイルスの影響もあり、実施されなかった。

2. 令和4年度社会福祉活動支援報告②

支援対象大会名	第44回全国視覚障害者将棋大会
実施時期	令和4年12月3日(土)・4日(日)
会場	東京都新宿区 戸山サンライズ 全国障害者総合福祉センター
出場資格	日本視覚障害者団体連合組織団体の会員であること
審判長	日本将棋連盟から派遣
参加費	2,000円
表彰	A級(有段者)、B級(級位以下)それぞれの優勝者に厚生労働大臣杯、A級優勝者にNHK会長賞、各級3位までの入賞者に日本将棋連盟会長・日盲連会長賞が授与された。また、A級優勝者には四段、B級優勝者には初段が日本将棋連盟より授与された。
主催	社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
後援	厚生労働省・日本放送協会・日本将棋連盟
大会事務局	社会福祉法人日本視覚障害者団体
支援内容	免状寄贈・後援名義使用・審判長/運営要員人選補佐

3. 日本文化紹介事業「海外棋士派遣事業」

派遣先 未定

日程 令和4年未定

⇒新型コロナウイルスの影響により中止。

4. 日中友好文化交流事業「海外棋士派遣事業」

事業名 第5回日中友好杏林堂杯青少年将棋大会

日程 令和4年8月6日(土)・7日(日)

会場 在中国日本国大使館

出席 佐藤康光 日本将棋連盟会長(オンライン)

内容 中国、香港、台湾、日本を対象地域として、小学生から大学生までの青少年の将棋大会を開催。棋士による講習を行なった。

主催 日本将棋連盟支部

共催 在中国日本国大使館

協賛 株式会社杏林堂薬局

定款 第4条(3)項、(6)項、(8)項に関する普及開発報告

…1. 事業(3)普及啓発事業(3)、5)

1. 親子ふれあい将棋広場 7月 更生保護会館

⇒実施した

2. 将棋指導員審査 4月 7地区(仙台・東京・名古屋・京都・大阪・福山・福岡)

⇒実施した。

3. 第54期女流アマ名人戦 9月4日(日) プラザマーム(東京都中央区)

⇒実施した。

4. 第48回「将棋の日」 11月5日(土)・6日(日) 喜多方プラザ文化センター(福島県喜多方市)

⇒実施した。

5. 学校へ将棋指導者派遣事業 4月～3月

⇒実施した。

6. 文部科学大臣杯第18回小・中学校将棋団体戦 8月10日(水)にサンケイプラザ
⇒実施した。
7. オリンピック・パラリンピック教育推進校に対する将棋を用いた「日本の伝統的な礼儀・作法やおもてなしの学習」授業の提案活動
⇒オリンピック・パラリンピック閉幕につき、終了。

定款 第4条(3)項、(6)項、(10)項に関する事業報告

…1. 事業(3)普及啓発事業(8)、(10)

1. 将棋道場事業

将棋会館(東京)、関西将棋会館(大阪)にて将棋道場営業。

入場者同士の対局による棋力認定や、専門棋士による指導対局を行なった。

2. 北海道将棋道場事業

北海道将棋会館(札幌市)にて将棋道場営業。

北海道支部連合会へ運営を依頼。

入場者同士の対局による棋力認定や、専門棋士による指導対局を行なった。

定款 第4条(4)項に関する国際大会支援事業報告

…1. 事業(3)普及啓発事業(5)

1. 第9回国際将棋フォーラム開催

2024年10月開催に向けた準備

⇒以上、行なった。

2. 創立100周年の開催に合わせて国際普及を目的とした事業の開発

⇒以上、行なった。

定款 第4条(5)項に関する事業報告…1. 事業(3)普及啓発事業(8)、(10)

1. 東京将棋会館 教室講習

◇子供将棋スクール 毎週 日曜日 月4回 初心者から1級まで、小学生

◇土曜子供入門教室 毎週 土曜日 月4回 初心者から5級まで、小学生

◇師範棋士制度 毎日(土日祝、年末年始を除く)

◇女流棋士レッスン 毎週 月曜日と水曜日の午前中(年末年始除く)

⇒上記教室講習を実施した。

◇タイトル戦・主要対局の大盤解説会の実施

⇒新型コロナウイルスの影響もあり、実施できなかった。

◇子供大会等、各種将棋企画の実施

⇒新型コロナウイルスの影響もあり、実施できなかった。

◇年末年始 将棋大会の実施

⇒実施した。

2. 関西将棋会館 教室講習

◇ビギナーズセミナー 土曜日 月2回不定期 一般向け、級位者

⇒実施した。

◇日曜こども将棋スクール 毎週 日曜日 月4回 小・中学生向け、級位者

⇒実施した。

◇土曜こども将棋スクール 毎週 土曜日 月4回 小・中学生向け、初級・中級・
上級クラス

⇒実施した。

◇レディースセミナー 毎週 月曜日 月4回 女性(一般)向け、初級・中級クラス

⇒実施した。

◇タイトル戦・主要対局の大盤解説会の実施

⇒新型コロナウイルスの影響もあり、実施できなかった。

◇夏休み(7～8月)子供大会の実施

⇒新型コロナウイルスの影響もあり、実施できなかった。

◇年末年始 将棋大会の実施

⇒実施した。

◇棋士・女流棋士による指導対局(土・日・祝)

⇒実施した。

◇関西将棋会館分校 高槻校 毎週 日曜日 月4回 小・中学生向け、級位者

⇒実施した。

3. 東・西将棋会館で棋具備品の貸し出し

⇒随時、行なった。

定款 第4条(6)項、(10)項に関する事業報告

…1. 事業(3)普及啓発事業(2)、8)

1. 下記子供将棋スクール 教室講習

◇子供将棋スクール渋谷校 毎週日曜日 小学生

◇子供将棋スクール町田校 毎週日曜日 小学生

◇子供将棋スクール川口校 毎月第2・4日曜日 小学生

◇子供将棋スクール横浜校 毎月第2・4日曜日 小学生

⇒上記教室講習を実施した。

2. ヤマダこども将棋教室

◇当初は全国のヤマダ電機34店舗で開催する予定であったが、17店舗での開催となった。

講師はプロ棋士及び将棋指導員、支部役員・会員、将棋指導員補佐

対象は初心～5級、中学生以下

定款 第4条(8)項に関する事業報告…収1 物品販売、出版、付帯収益事業

将棋関連商品事業

◇将棋盤・駒 高級品・普及品 随時販売した。

◇扇子 名人戦記念 5月発売した。

名人位 8月発売した。

竜王戦記念 11月発売した。

竜王位 3月発売した。

タイトル保持者・棋士・女流棋士 随時発売した。

◇カレンダー・将棋手帳 11月発売した。

◇将棋関連書籍・雑誌 随時発売した。

- ◇他グッズ（置き駒、将棋タオル、大盤セット等） 随時販売した。
- ◇新商品の開発を行なった。

定款 第4条（9）項に関する事業報告

1. 将棋免状認定

- ◇専門棋士（プロ棋士）指導による棋力認定
 - ◇棋道正師範・棋道師範・棋道指導員・将棋指導員による棋力認定
 - ◇専門誌紙上検定による棋力認定
 - ◇新聞・雑誌の紙上検定による棋力認定
 - ◇インターネットによる棋力認定
 - ◇テレビによる棋力認定
 - ◇記念認定
 - ◇将棋会館道場認定
 - ◇支部会員認定
- ⇒以上、行なった。

定款 第4条（10）項に関する事業報告・・・1. 事業（3）普及啓発事業（9）、11）

1. 広報活動

- ◇各報道関係者・出版機関に将棋文化の宣伝を行なった。
- ◇会員・棋戦・イベント等の将棋に関する情報を発信した。
- ◇全国各地の公共機関・施設や企業より依頼された将棋イベントや講演等の協力を行なった。
- ◇テレビ・ラジオ番組・映画・WEB（将棋関係）へ資料を提供し、専門棋士の出演や協力、制作の協力を行なった。
- ◇各マスメディアからの取材等の協力を行なった。
- ◇出版社の書籍編集協力やゲームの商品化に協力した。
- ◇将棋対局における記録など資料整備を行なった。
- ◇ホームページ上により将棋の情報を一般の方々に公開した。
- ◇対局を写真撮影してマスコミに貸出を行なった。
- ◇棋士・女流棋士を起用する広告案件と対応と企画を行なった。

2. 電子メディア事業

- ◇日本将棋連盟公式サイト <https://www.shogi.or.jp/>にて将棋関連の情報を配信し、国内・海外への普及振興に努めた。
- ◇モバイルでの棋戦中継事業を実施した。
- ◇インターネット対局サイト「将棋倶楽部24」の運営に協力した。
- ◇社内ネットワークの運用を行なった。
- ◇PC、デジタル機器の資産管理と整備を行なった。
- ◇テレワーク環境の整備と推進を行なった。
- ◇情報資産をITCツールを用いて管理し、社内共有を推進した。
- ◇動画配信サイト、SNSを活用し、将棋の魅力を伝えた。

3. 普及推進事業

- ◇将棋文化振興支援団体（地方自治体代表者）を集めての交流会を行なった。
日程：令和4年10月9日（日）
会場：岐阜県関ヶ原町 「関ヶ原ふれあいセンター」
- ◇将棋に関する正しい知識の浸透とそれを有するファンの適切な評価を目的として「第7回

将棋文化検定」を行なった。

4. ライセンス事業

常に商標登録の申請を行なった。

理事会・社員総会等に関する事項

	開催年月日	議事事項
常務会	2022年4月5日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年4月11日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年4月18日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年4月26日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年5月17日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年5月23日	業務の管理、運営に関して
理事会	2022年5月23日	<p>議案</p> <p>第1号議案 令和3年度決算書類承認の件</p> <p>第2号議案 令和3年度事業報告承認の件</p> <p>第3号議案 第73回通常総会開催の件</p> <p>① 日時:令和4年6月10日 13時～</p> <p>② 場所:日本青年館ホテル</p> <p>第4号議案 第73回通常総会議長・副議長選出の件</p> <p>① 議長:畠山鎮八段、副議長:野月浩貴八段</p> <p>第5号議案 第73回通常総会議案の件</p> <p>① 令和3年度決算書類承認の件</p> <p>② 令和3年度事業報告承認の件</p> <p>③ 将棋会館(東京)店舗部分の件</p> <p>第6号議案 正会員及び準会員の会費減額の件</p> <p>第7号議案 倫理委員任命の件</p> <p>第8号議案 称号概要・昇段規定改定の件</p> <p>第9号議案 将棋会館(東京)店舗部分の件</p> <p>第10号議案 名古屋対局場の件</p> <p>報告</p>
常務会	2022年5月31日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2022年5月31日	正会員への報告及び質疑応答
常務会	2022年6月9日	業務の管理、運営に関して
第73回通常総会	2022年6月10日	<p>議案</p> <p>第1号議案 令和3年度決算書類承認の件</p> <p>第2号議案 令和3年度事業報告承認の件</p> <p>第3号議案 将棋会館(東京)店舗部分の件</p>

理事会	2022年6月10日	議案 第1号議案 顧問選定の件 第2号議案 アドバイザリー会議設置の件
常務会	2022年6月17日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年6月30日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年7月6日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年7月15日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年7月25日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2022年7月25日	正会員への報告及び質疑応答
常務会	2022年8月8日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年8月19日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年8月26日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年9月8日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年9月15日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年9月21日	業務の管理、運営に関して
理事会	2022年9月21日	議案 第1号議案 新関西将棋会館土地購入の件 第2号議案 現関西将棋会館売却の件 第3号議案 役員賞与規程制定の件 第4号議案 永世称号規定改定の件 報告
理事会（書面決議）	2022年9月22日	議案 第1号議案 臨時総会開催の件 ① 日時：10月18日 13時～ ② 場所：東京・将棋会館（東京都渋谷区） 関西将棋会館（大阪府大阪市福島区） 第2号議案 臨時総会議長・副議長選出の件 ① 議長：野月浩貴八段、副議長： 糸谷哲郎八段 第3号議案 臨時総会議案の件 ① 新関西将棋会館土地購入の件 ② 現関西将棋会館売却の件
常務会	2022年9月28日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2022年9月28日	正会員への報告及び質疑応答
常務会	2022年10月5日	業務の管理、運営に関して

常務会	2022年10月17日	業務の管理、運営に関して
臨時総会	2022年10月18日	議案 第1号議案 新関西将棋会館土地購入の件 第2号議案 現関西将棋会館売却の件
常務会	2022年10月25日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年11月2日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年11月10日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年11月22日	業務の管理、運営に関して
常務会	2022年11月29日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2022年11月29日	正会員への報告及び質疑応答
常務会	2022年12月12日	業務の管理、運営に関して
理事会	2022年12月12日	議案 第1号議案 令和4年度中間決算承認の件 第2号議案 功労金規程改定の件 第3号議案 現将棋会館売却の件 報告
理事会（書面決議）	2022年12月13日	議案 第1号議案 令和4年度臨時総会開催の件 ① 日時: 令和5年1月25日 13時～ ② 場所: 東京・将棋会館（東京都渋谷区 関西将棋会館（大阪府大阪市福島区） 第2号議案 令和4年度臨時総会議長・副議長 選出の件 ① 議長: 野月浩貴八段、副議長: 糸谷哲郎八段 第3号議案 令和4年度臨時総会議案の件 ① 現将棋会館売却の件
常務会	2022年12月21日	業務の管理、運営に関して
常務会	2023年1月12日	業務の管理、運営に関して
常務会	2023年1月19日	業務の管理、運営に関して
臨時総会	2023年1月25日	議案 第1号議案 現将棋会館売却の件
常務会	2023年1月30日	業務の管理、運営に関して
常務会	2023年2月14日	業務の管理、運営に関して
常務会	2023年2月21日	業務の管理、運営に関して
理事会（書面決議）	2023年2月27日	議案 第1号議案 臨時対局規定廃止の件

常務会	2023年2月28日	業務の管理、運営に関して
常務会	2023年3月9日	業務の管理、運営に関して
常務会	2023年3月22日	業務の管理、運営に関して
理事会	2023年3月28日	議案 第1号議案 令和5年度事業計画書・収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類 承認の件 第2号議案 対局規定改定の件 報告
常務会	2023年3月30日	業務の管理、運営に関して
定例報告会 (リモートによる)	2023年3月30日	正会員への報告及び質疑応答